

# バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第135号 [2016年5月]

## さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8章 22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

+・・・+

主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第135号をお送りします。今月はルカ福音書の6章の学びを進め、17～20節を読みました。

アダムとエバは知恵の実を食べれば神様のように知恵を持ち、神様から独立して生きていけると考え、そう願って木の実を食べた。そして神から離れてエデンの園を追われ、苦しみの多い人生を送って死によってそれを終了することになった。「神から離れて自力で生きていこう」と思うこと、これが「罪」である。

神への強い信仰を持って生きたアブラハムの子孫であるイスラエルの民は、神に従っていたつもりが年月を経て次第に「律法さえ守れば神の前に正しい」とする律法主義に陥り、律法学者の言う通りに生活しなくてはならないという毎日を送るようになってしまった。つまり実際には神から離れてしまった。この律法と律法学者に振り回されて苦しむ人々に向かって主イエスは精力的に伝道活動を繰り広げ、「神に立ち帰りなさい。律法を捨てて神を愛しなさい」と教えて回った。そのため律法学者たちに嫌悪され、ついにはイエス暗殺計画が目論まれた。

主はここで山に上り、徹夜の祈禱を捧げてから12人の使徒を選出した。新しいイスラエルを建設するために、主イエスがこの世を去られた後も伝道をするための要員だった。そして彼らと共に山を下りると、イエスの教えを聞きたいと願う弟子たち、また癒されたい、救われたいと切望する民衆、群衆が大勢詰めかけていた。

「レモンを舐めるととても酸っぱい」と聞くと人の口の中に唾液が満ちるように、言葉にはその人の肉体に影響する力がある。そしてイエスの言葉には、聞く人の精神をよみがえらせる非常に大きな力がある。その日も主はひっそりなしに彼らを癒し、命の飢餓に苦しむ彼らに命を与え、彼らの心を神の愛で満たしていった。そして目を上げ、弟子たちに向かって教え始めた。「貧しい人々は幸いである。神の国はあなたがたのものである。」

貧しい人々とは、まさに彼らの事だった。財産に貧しい、食べ物に貧しい、健康に貧しい、愛に貧しい、etc. こうした状況から救われる見込みすらなく絶望の中にいた彼らは、耳にした主イエスの噂に藁をもつかむ思いですが、イエスの言葉によって癒され、生き返る思いを実感した。その上で主は、神の国は、神の言葉を渴望してやってくるあなたがたのような人が入る所だと断言したのだ。貧しさや病や孤独を克服することに増して、これこそ彼らが望んでいた究極の願いだった。もう律法に振り回されなくても神の国に入れると言われた人々は、その大きな喜び打ち震えた。



この日から2000年の年月が流れた今、私たちはこの出来事を「過去の幸運な出来事」として眺めるのだろうか。聖書のこの記事を読む時、あなたはどこにいますか？と問いかける牧師は多い。山の上で主と一緒に祈っているのか、使徒たちと一緒に山を下りて来るのか、平地の弟子や民衆に混じってイエスを探しているのか、群衆を遠巻きにして彼らと主イエスがすることを眺めているのか。主はこの日、おびたしい病人を一人ひとり癒しながら、2000年後に命を受ける愛しいあなたが、彼らと同じように神の言葉を聞き、神の国に入ってきてほしいと心の底から願い、徹夜の祈りであなたの導きを祈られた。

今もいきいきと主イエスの語った力あふれる御言葉を伝える聖書から、命の言葉に本気で聞いてみませんか。